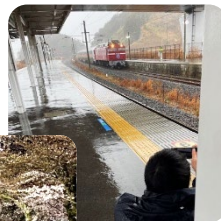


移住者日記

No.7

大熊町役場

矢野 扶美 様



息子と一緒に大熊町で暮らし始めて1年3か月が経ちました。私たち親子は、学び舎ゆめの森に進学するため、東京都から大熊町に移住しました。以前から、息子の教育について、義務教育は楽しいものであってほしいという思いがあり、のびのびと学習できる環境を探していました。その中で、大熊町に学び舎ゆめの森が開校することを知りました。私は生まれも育ちも東京都ですが、前職の関係で大熊町や富岡町のことを知っていました。夫も建築、設計の仕事のため、東日本大震災後にいわき市に滞在していたことがあり、私たち夫婦にとって福島県浜通りは知らない土地ではありませんでした。2022年12月、学校説明会のために訪れた大熊町には、緑に囲まれた近代的な町並みがありました。いわゆる田舎の町を想像していた息子は少し安心したようでした。また、期待していた通り、学び舎ゆめの森の教育方針や環境は息子の性格に合っているのではないかと思います。夫も息子も私も大熊町が気に入り、あれよあれよという間に移住が決まりました。

移住にあたり、町や学校のことだけではなく、放射線のことでも調べました。福島第一原子力発電所事故が起きた時、私は生まれたばかりの息子の育児に追われ、放射線のことをほとんど考えたことがありませんでした。今思い返すと、西日本に避難したり、市販の水を買ったりしている方がいたなあという感じです。改めてインターネットで検索してみると、様々な情報やデータが溢れていましたが、結局は国や専門家が発信している情報が一番信用できると思いました。なによりも私の心配事は、息子が愛してやまない鉄道のことでした。東京には、多くの路線があり、気軽に電車に乗ることができます。大熊町には、常磐線がありますが、本数は少なく、日常生活で電車に乗る機会もありません。学校生活が良くても、鉄道を感ずることができない日々は辛いものになるのではないかと思います。しかし、私の心配をよそに、息子は見慣れない電車が走る町での暮らしを楽しみにしていました。そして、2023年、学び舎ゆめの森の開校に合わせて、たくさんの鉄道グッズとともに、大熊町に移り住みました。夫は仕事のため、東京に残ることになりました。

現在、私は大熊町役場に勤めています。移住当初は寂しさもありましたが、仕事や町のイベントを通して友達も増えました。息子も楽しい学校生活を送っています。学び舎ゆめの森では、子供が少数なことを活かし、一人一人に寄り添った指導をもらえるため、子供たちは自分が大切にされているという安心感があるのではないのでしょうか。それから、親子で、町で働くお兄さんが立ち上げた、鉄道に関して乗る、撮る、聞く等、様々な鉄道好きが集まる「鉄道部」の一員になりました。鉄分補給(鉄道によって心が満たされること)が十分な一方で、息子が熱を出した時は、病院がないことに不安を感じました。町の暮らしは何不自由ありませんが、医療環境については、東京は恵まれていたと痛感しています。

私たちは復興のために移住してきたわけではなく、より良い教育環境を求めて大熊町にやってきました。そのため、私が移住者日記に登場してもよいものかと悩みましたが、私が発信することで大熊町の魅力が伝わり、放射線への誤解もなくなれば良いと思います。楽しかったと思える日が一日でも多い方がいい、そんな気持ちを持って大熊町で暮らしています。